公益財団法人
稲盛財団

PRESS RELEASE

2017年 7月31日
公益財団法人 稲盛財団

報道関係者各位

01

稲盛財団 特別協賛「ハンブルク・バレエ団」2018年京都公演
＜京都賞＞2015年受賞・舞踊界の巨匠 ジョン・ノイマイヤー
― 世界を魅了する名門バレエ団の革新的な現代舞台芸術とその神髄 ―

『マタイ受難曲』 © Kiyonori Hasegawa

『くるみ割り人形』 © Kiyonori Hasegawa

『椿姫』 © Kiyonori Hasegawa

KYOTO PRIZE
京都賞
KYOTO PRIZE

「京都賞」受賞者 ジョン・ノイマイヤー振付・演出
ハンブルク・バレエ団
ガラ公演＜ジョン・ノイマイヤーの世界＞
日 程：2018年2月17日（土） 会 場：ロームシアター京都 メインホール

❖ 京都の皆さまへ世界最高峰の芸術に触れる機会を創出
京都賞受賞時の名スピーチで私たちを魅了したノイマイヤー氏。彼のバレエにかける情熱が、世界一の呼び声高きハンブルク・バレエ団の舞踊を通して語られます。

❖ 京都公演限定 子どもたちに世界レベルの芸術を提供し、未来の可能性を育む
京都公演にあわせ、バレエを学ぶ子どもたちを対象に、ハンブルク・バレエ団による特別企画を開催。作品鑑賞とはことなる形式で、世界的なバレエ団に触れていただく機会を提供します。日程など詳細については、今秋発表いたします。

ジョン・ノイマイヤー

米国ウィスコンシン州生まれ。シュツットガルト・バレエ団で活躍したのち、フランクフルト・バレエ団の芸術監督を務め、1973年よりハンブルク・バレエ団監督。数多くの振付作品を発表。その独特の心理的手法で人間の心の真実を描き出し、現代バレエ界の巨匠として絶大な支持を得ている。「20世紀バレエの流れを刷新し、今世紀もなお世界の舞踊界を牽引し続ける振付家」として第31回(2015)京都賞思想・芸術部門を受賞。ローザンヌ国際バレエコンクールの特別功労賞など受賞多数。

【本件に関するお問い合わせ】
公益財団法人 稲盛財団　広報部　竹之内 勇人・木村 紗矢香
〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620番地COCON烏丸7F
TEL : 075-353-7272　FAX : 075-353-7270　E-mail : press@inamori-f.or.jp
URL : ［稲盛財団］ http://www.inamori-f.or.jp/　［京都賞］ http://www.kyotoprize.org/

※本資料は京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブ、文部科学省記者会等に配布しています。

02 京都公演の概要

「京都賞」受賞者 ジョン・ノイマイヤー振付・演出
ハンブルク・バレエ団
ガラ公演＜ジョン・ノイマイヤーの世界＞

日　時	：	2018年2月17日(土) 14:00開演
会　場	：	ロームシアター京都 メインホール
予定演目	：	『キャンディード序曲』、『アイ・ガット・リズム』、『くるみ割り人形』、『マタイ受難曲』、『椿姫』、『ニジンスキー』、『ハムレット』、『作品100―モーリスのために』、『マーラー交響曲第3番』他
振付・演出・ナレーション	：	ジョン・ノイマイヤー
主　催	：	ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市
特別協賛	：	公益財団法人稲盛財団
助　成	：	平成29年度 文化庁文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業
後　援	：	ドイツ連邦共和国大使館

このガラ公演は、ノイマイヤー氏がバレエに身を捧げた自らの人生を、その豊饒な作品群の断片と重ねてゆく、というコンセプトを持っています。振付家自身の語りで始まる本編には、互いが必死に自己と向き合う青春の愛を描いて人気の『椿姫』や、伝説の天才ダンサーの壮絶な魂に寄り添った『ニジンスキー』、バレエへの愛をつづった『くるみ割り人形』などの物語バレエから、独自のアプローチで大作曲家たちの音楽の世界を表出して見せた『マーラー交響曲第3番』『マタイ受難曲』などシンフォニック・バレエまで壮大にして魅力的なノイマイヤー氏の世界を表現しています。

また、『作品100―モーリスのために』は同じく振付家で親交があった故モーリス・ベジャール氏（第15回京都賞受賞者）が70歳の誕生日を迎えるにあたってノイマイヤー氏が創作した作品で、本公演でも上演されます。

03 ジョン・ノイマイヤー氏について

ジョン・ノイマイヤー氏／第31回(2015)京都賞思想・芸術部門受賞

© Steven Haberland

20世紀バレエの流れを刷新し、今世紀もなお世界の舞踊界を牽引し続ける振付家

ノイマイヤー氏は、伝統的なバレエの動きをベースとしながら、身体の持つ表現力を最大限に引き出し、人間心理を巧みに表現した振付によって舞踊界をリードし続けている。20世紀以降のバレエ史において 2つに分かれて発展してきた劇的バレエと抽象バレエの本質を統合し、舞踊という芸術を一段の高みへと引き上げた。

現代バレエ界の巨匠

ノイマイヤー氏は40年以上にわたりハンブルク・バレエ団の監督を務めている。当地では　絶大な人気を誇り、作品は市民に熱狂をもって迎えられている。またドイツ国内にとどまらず、氏の作品は世界中の一流バレエ団によって上演され、バレエ界全体に大きな影響をおよぼしている。日本文化にも　関心が深く、『月に寄せる七つの俳句』など、日本的繊細さや叙情性、折々の季節感の変化をみごとに表現した作品を創作している。

『月に寄せる七つの俳句』より　© Holger Badekow

20世紀バレエの成果を集約

ノイマイヤー氏が振付けたバレエでは、人間の複雑な心理が洗練された形で舞台上に表現されている。氏は伝統的なバレエ技法を発展させ、独自の振付法を確立した。また、クラシックバレエの伝統をそのまま受け継ぐのではなく、『幻想ー「白鳥の湖」のように』や『椿姫』などの作品では、古典的レパートリーや文学作品に新しい解釈と視点を織り込むことによって、新鮮な驚きに満ちた感動を観客に与えた。

一方、『マーラー交響曲第3番』などの名作音楽に振付けた作品では、はっきりとした物語は存在しないにもかかわらず、氏は楽曲に深く入り込んで解釈することで、ダンサーの動きによって情感豊かな表現を生み出している。個々の場面は楽曲の細部のニュアンスに呼応した振付によって　巧みに展開され、楽曲のもつ世界観が舞踊作品のうちにみごとに表現されている。このような氏の音楽性は、抽象バレエのジャンルにとどまらず、劇的バレエの作品群においても、説得力や感動を下支えする本質的な力となっている。

『幻想ー「白鳥の湖」のように』では、狂王ルートヴィヒ2世を主人公とし、その心の闇を「影の男」として描く。王は最後に「影の男」とともに湖に沈む（写真）
© Holger Badekow

『マーラー交響曲第3番』より　© Holger Badekow

クラシックバレエから出発したノイマイヤー氏であるが、その伝統を継承しつつも舞踊表現に新たな次元を付け加え、20世紀バレエの主要な2つの流れ、すなわち心理描写に重きをおいた劇的バレエと物語をもたない抽象バレエの両者の本質を自らの作品において統合している。

バレエ文化への貢献

ノイマイヤー氏の活動はバレエ制作にとどまらず、広くバレエ文化の振興にまで及んでいる。1975年から「ハンブルク・バレエ週間」を　開催し、世界中からバレエ団やダンサーを招聘、交流を深めている。また1978年にはハンブルク・バレエ学校を設立し、バレエ教育にも力を注いでいる。2006年には自身が収集した歴史的なバレエ関連のコレクションを後世に伝えるため ジョン・ノイマイヤー財団を創設。2011年からは新たに設立したナショナル・ユース・バレエで後進の育成に努めている。

収集したバレエ関連のコレクションを前に

04 稲盛財団および京都賞について

稲盛財団について

稲盛財団は、稲盛和夫（現京セラ株式会社名誉会長）により、1984年4月12日に設立され、1985年より事業を開始しました。「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」そして、「人類の未来は、科学の発展と人類の精神的深化のバランスがとれて、初めて安定したものになる」という創設者稲盛和夫の理念に基づき、科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に向けての創造的な活動に対する顕彰、助成および社会啓発活動などを通じて、国際相互理解の増進に努め、人類の平和と繁栄に積極的に貢献していきます。

京都賞について

京都賞は、「科学や文明の発展」また 「人類の精神的深化・高揚」に大きく貢献した方々に贈られる国際賞です。毎年、 「先端技術」「基礎科学部門」「思想・芸術」 の3部門の受賞者に京都賞メダル、ディプロマ（妙心寺 管長猊下の揮毫による賞状）、および賞金5,000万円をそれぞれに贈呈しています。受賞者の偉大な功績を讃えるとともに、学術や文化がますます発展し、国際相互理解がさらに進むことをめざしています。

授賞対象分野 ： 3部門4分野

先端技術部門	基礎科学部門	思想・芸術部門
エレクトロニクス	生物科学 （進化･行動･生態･環境）	音楽
バイオテクノロジー及び メディカルテクノロジー	数理科学 （純粋数学を含む）	美術（絵画・彫刻・工芸・建築・写真・デザイン等）
材料科学	地球科学・宇宙科学	映画・演劇
情報科学	生命科学（分子生物学・ 細胞生物学・神経生物学）	思想・倫理